

令和3年度第5回 北杜市ほくと子ども育成戦略会議 議事録（要旨）

1. 会議名 令和3年度第5回 北杜市ほくと子ども育成戦略会議
2. 開催日時 令和3年11月2日（火） 午後1時30分から午後3時10分
3. 開催場所 北杜市役所 北館3階大会議室
4. 出席者
 - (1) 北杜市ほくと子ども育成戦略会議委員
安達義通委員長、名取政義副委員長、飯田久美子委員、江間照夫委員、岡安祐樹委員、小林佳恵委員、佐藤文昭委員、白倉繁委員、玉山桃子委員、呑田真人委員、三澤裕美委員、溝口奈緒美委員、矢崎香織委員、矢崎茂男委員、矢崎憲恒委員、吉田百加利委員

欠席者 天野さやか委員、栗原正明委員、宮崎亮子委員
 - (2) 北杜市
市長、教育長、政策秘書部長、福祉部長、教育部参事、企画課長、市民課長、税務課長、林政課長、住宅課長、政策推進課長、政策推進課計画推進担当
5. 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 委員長あいさつ
 - (3) 市長あいさつ
 - (4) 議事
 - ・提言について
 - ・その他
 - (5) 閉会
6. 公開・非公開の別 公開
7. 傍聴人の数 3人
8. 審議内容
 - 北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき会議の公開の確認
 - 委員了承

(4) 議事

○署名委員の指名

・提言について

(事務局より、資料1、2を説明。)

以下委員の意見

- 「1. はじめに」の中で、市の強みについて、具体的に自然の豊かさを明記した方が良い。
- 提言施策の記載順について、委員同士の評価結果を基に評価の高い順に記載した方が良い。
- 委員の任期が2年ある。来年度はどのような予定をしているか。
- 自然が強み。提言書の中には生かされているが、強みだということが、はっきりと記載がないので、「1. はじめに」に盛り込んでいく。提言施策の記載順については、当初各グループで優先順位を付けた経緯もある。内部の視点だけでなくパブリックの視点も考慮すべき。一方、投票して順位が付いているので、評価順も有効となる。
- 自然破壊が起きていて、例えば、太陽光パネルの問題にしても地域を分断するような状況になっている。木材高騰の話もあって、家の周辺で森林が皆伐されている。自然環境の大切さについて総論合意だが、伐採量の上限下限についての考え方は個人差がある。自然を守るため、踏み込んで、具体性、数字を示し、方針と具体性をセットで示した方が良い。
- 日本は私権が強い、しかも法律以上に厳しいことを自治体でやることは難しい。理念として理解できるが、具体的に数値で示すことは難しい。
- 市の方針だけでも良い。森林を市の財産とするならば、言うことはただなので踏み込んで示しても良い。
- あまり強く自然を押ししてしまうと、提言の中身と整合が取れなくなってしまう部分が出てくる。例えば、宅地、賃貸住宅の大幅な確保など。そもそも木を切ることが自然破壊ではなく、木を切っても植樹をしていけば、問題ないと思う。自然環境と共生しているまちとして子どもを増やしていくなどの方向性の記載が良い。
- 住宅の確保については、イノベーション、古民家の活用など、新たに開発してという意見よりは、むしろあるものを生かしていくような意見が多かった。
- (委員長)「1. はじめに」の中にどこまで盛り込むのかは、最終的には事務局と相談して、記載内容を決める。
- 評価順位順の記載に賛成。「突出した魅力ある学校を作る」施策について、曖昧だと思う。何をもって突出なのか。世界中には良い教育がたくさんある。例えば、日本の教育とセットで欧米に倣ったニュージーランド型教育をセットで学校をつくるとか、世田谷区では、不登校という言葉をなくそうとしていて、学校に行かないという選択を認めているなど。評価が高い項目でこういう感じなので、もう少し踏み込んで記載をした方が良い。
- 5回の会議で出来るのはこの位だと思う。ここまで出ただけでも十分だと思う。踏み込んで記載するとしたら詳細まで調べて検討しなければならないが、そこまで議論していない。小淵沢の例が挙げられているが、特殊なものがあれば集められるという段階だと思う。5回の会議では、踏み込み過ぎてしまうと、間違った方向に行く可能性もあるので、慎重になった方が良い。

- 子どもたちや人口をどう増やすか議論するためには、2時間の会議を5回でというのは元々設計として成立していない。日本中でこういう集まりが行われているが、具体性がないと形になる事例がないと思う。ここまで仕上げたのは、一つの成果だと思うが、もう一步踏み込まないと形にならない。
- 一旦ここで提言書をまとめることまでは決まっているが、来年度はどのようにするのか。
(事務局) 提言書を現在策定中の第3次北杜市総合計画の審議会に資料として提供し、包括的な部分については、可能な限り総合計画への反映を考えている。事業的事項については、毎年度の予算編成の中で、検討していくことを考えている。来年度については、総合計画への反映状況、事業等の状況について、報告し、それを基に検討していくことを考えている。
- 具体的な来年度の検討事項については、今後、(委員長が)事務局と詰めていく。1年目としては、ここまでのレベル。抽象度は高いが、一旦市長へ提言を行う。
- 包括的な話には具体的な数字がどれくらい入るのか。10年かけて子供の数を倍にするということについても年次の目標数値が入ると思うが、今回、評価が高かった学校の話は、踏み込んで書くのか書かないのか。
(事務局) 総合計画では、各施策については、数値を記載しない。施策の達成状況の評価については、指標を設定する。学校教育等の記載については、現在審議会でも検討中。安心して子供を産み育てる支援や、地域ぐるみの保育、教育、魅力ある学校教育、子育て世代、若者の交流や子育て世代の移住促進などの柱立てを行い計画策定する。
- 北杜市にとって、子どもを安全に、市の魅力、環境を守るとはどういう意味なのか明確な定義付けを行った方が良い。
- (委員長) 提言の内容について、1年目はここまでとする。
- プレゼンでの印象が強いものに投票した。評価結果が本当に合理性を持っているかどうか疑問が残る。評価が高かった「突出した魅力ある学校作り」について、インパクトがあり、そういう学校があれば、子どもを入学させたいということが起こるかもしれない。しかし、現実的には義務教育というのは、子供たちがどこの地域にいても等しく教育を受けることが出来る権利を保障するための教育であるから非常に地味なものだと思う。高等学校以上では、妥当かもしれないが、小学校、中学校では疑問が残る。一時的な居住者で定住につながるのかは疑問が残る。
- 「突出した魅力のある学校を作る」とは、小中学校を作るのではなく、農業大学校など、親が農業を行うことで子どもを含め移住して来るイメージを持っていた。子どもたちが参加できる学校、大人が参加できる学校やクラブなど特殊な学校を作って移住を促進していくことだと思っていた。
- 一時的に子どもたちが集まることではあるが、まず、寄せないことには始まらないという考え方。数ある田舎まち、数ある自然豊かなまちの中で、北杜が選ばれるためには、何か起爆剤になる、外に向かって発信できるものがないと子どもは集まらない。まずは寄せるため、北杜市で小学校、中学校時代を過ごさせたいと思わせるような環境づくりが出来れば良い。
- 「突出した魅力ある学校」とは、職業訓練等大人向けではなく、小中学校をイメージして

いる。

○教育で人は動くことが多い。清里聖ヨハネ保育園は、そこに通わせたいと移住してくる方が年々増えていることを感じる。特徴があって、清里の森で伸び伸び育っているからこそ、保育園に通わせたいと心動かして、来られているところがある。卒園してしまうとそこで切れてしまうので、小学校それぞれに個性が出せるよう予算付けを行い、この土地ならではの教育の良さをもっと打ち出していけば良い。

○（委員長）評価の高い順から並べ、点数までは書かないという記載方法とする。

○記載の順番で総合計画などへの反映されやすさがあるのか。カテゴリー別に並んでいる方が見やすい。

（事務局）記載の順番による対応の違いはない。個々の内容で判断する。

○（委員長）反映等については、市が本当に大事と考えるところからだと思う。順番付けについては、思いをのせるかどうか。なるべく評価順位を反映させつつ、はっきり書かないようにする。

○総合計画策定後、反映状況について報告いただけるのか。

（事務局）結果は、来年度に報告する。

○提言の数だけ見ると「移住・関係人口の増加」が多い。子供の数を増やすとなると内の充実と外へ向けての充実とがある。外に向けてのことが取り組みやすく、すぐ取り組めることが多く感じた。既に住んでいる人に向けての部分が少し弱く、外向けの施策に人力や予算が向いていくことが心配。今住んでいる人で困っていたり、不満を持っていたり、せっかく移住してきたのにギャップがものすごくあって、戻ろうと考えている人もいるので、その部分にもフォローがいると感じた。外に向けて来てくださいと言っているが、保育園や学校の面から言えば、受け皿が不足しているのではないかと心配している。いざ越してきたけど、住んでいる地域の保育園には入れないという事例が他の市町村でもある。北杜市も既に夏の時点で赤ちゃんがいる方が入れないことがあった。

（事務局）市内に14保育園あり、人数的には十分受け入れられる広さはある。保育士が不足する場所があるので、中途の受け入れができない場合がある。

○見せ方の問題。内にも配慮していると分かる形で記載を検討した方が良い。

○「宅地、賃貸住宅の大幅な確保」で、森林や農地等は潰せないの、集落の中の空き家や宅地の活用が必要。そのため、受け入れる地域住民の意識改革も必要だと考える。人が減っている集落をどう活性化していくかという視点も含めて考えれば良い。

○集落側からすると、郷に入ったら郷に従えではないが、集落側のやり方も理解してほしいと思っている。どちらかに合わせることは難しいので、共存していく方向性で記載する。

○郷に入れば郷に従えをやり過ぎて、消滅しそうな集落もある。集落の意識を変えていかないと集落自体がなくなる。

○地域を維持していくためにも意識を変えていかないといけない。その考え方は今回、初めて出てきた。

○「宅地、賃貸住宅の大幅な確保」にゾーニング等を行いとあるが、自然環境の保護となると、集落内の空き家や宅地を確保していくしかない。土地を確保していくには、集落内という考え方は、方向性としては同じなので、ここに含めて記載すれば良い。

○保育園について、建替え等ハード面に予算を使い、保育士の処遇改善には使わないのか。
(事務局) 施設は、整備計画に基づいて改修、建替えを行っている、処遇改善も実施している。

・各委員からコメント

- 提言書を見たとき、全部市で行ってほしいという見え方になっていないか気になる。市民、行政、民間が一体となってやっていくことがここに盛り込まれているので、それぞれ分けて記載しても良い。民間で活動している団体等と一緒にここからスタートしてほしい。
- 限られた回数の中で、成果が凝縮されている。一方当初イメージした会議内容とずれを感じた。子ども育成戦略会議という名前を聞いたときにどうやったら子どもが魅力的な大人になるのか、力のある子供になるのか、育成の面での検討をイメージしていた。企業には、例えば健康や食に関するノウハウ等が蓄積されているので、そういったものを北杜市ならではの教育の中にどうやって落とし込めるのか、どのような協力ができるのか来年度検討できれば良い。
- 子どもに関する会議もいくつかあり、似たような議論がされている。一緒にすれば、もっと良い議論ができると思う。別々の会議で同じような議論を行うより、一つの会議で行うことで、会議の回数を増やすことが出来、連続的な議論を行える。
- 提言書について、ここまでかという感じがある。市長への手紙レベルで終わってしまったらもったいない。この先も北杜市で子育てしていきたいと強い思いがあるからこそ、ここに座っているので、思いは大事にしていきたい。より踏み込んで、より良い北杜市になってほしいと思うので、来年度も尽力していきたい。教育は、結局循環して、将来戻ってくるものだと思うので、すごく大事な根っこだと思う。
- 今回の会議の位置づけ、プロセスが最終的にどういう形でつながっていくのかという設計が不十分だった。ワークショップを行うと、どうしても自分たちの思いをのせて話をし、それが実現されるだろうと期待をしてしまう。政策に反映される部分は限られてしまうということが後になって出てくると、モヤモヤした気持ちが残ってしまう。
- こういう議論をすると、どうしても行政側への要求が先に立ってしまうが、市民側は何を行うのかという議論が同時並行で必要だと思う。行政が行うこと、市民ができること、関わる方一人一人が出来ることが何か整理することも併せて必要だと考える。
- 韮崎北杜青年会議所のメンバーとして、地域をなんとかしようという思いで活動している。生まれ育ったまちなので、寂れさすわけにはいかない。この市を何とかしたいと強く思う。今後もしっかり検討していく。
- 移住して半年、市のことや制度のこと、皆さんが現状どう思っているのかこの会議で知ることができ、勉強になった。移住定住の相談窓口で、今回の企画提案を生かしていく。
- 全部が行政にやってほしいということではない。市民で出来ることはと思っている。声を掛けただけで出来るだけフレンドリーにしていきたい。フレンドリーに声をかけていただけたら、協力する。
- いろいろな考え方、意見を聴かせていただいて勉強になった。聖ヨハネ保育園は、森での保育を行っており、県外からの問い合わせが多くなった。自然を活かした保育で、小学校に向けての継続した教育ができれば良い。

- 専門家でも何でもない市民として参加している。こういう会議や市役所の中で、専門家や有識者と言われる人たちが政策、方針を決めていくと思うが、それが市民に知られているのか、もう少しわかりやすく公表されたら良いと思う。この会議でも今まで議論してきたものが、市民の方、移住されてくる方に分かりやすく公表されて、それを追いかけるような状況になると良い。
- いろいろな考え方があるが、子どもたちはその考え方に気付いていないと感じた。高校生が、アンケートや意見を出して総合計画の策定に参加しているが、北杜市の魅力や課題などまだまだ知らないところがある。また、自分たちが必要とされていることもあまり感じられていない。行政だけではなく、市民が本当に子どもは大切な存在で、自分たちが愛されてここで育っているということを感じさせられるような教育にしたい。
- あの学校に行きたいなという特色ある学校でなければいけないと思う。SDG' S 事業について、人権とかジェンダーとかいろいろなものを含めた目標であるが、中心は自然保護だと思う。学校で行っている自然体験教室や環境学習教育等を通じて、子どもたちを自然好きにしたいと思う。それがひいては、北杜市好きになり、大きくなってこのまちに定住する人になっていく。
- 今回、子ども育成戦略会議の私の捉え方は、少子高齢化がかなり進展する中、北杜市の子どもの数を2倍にしたいという市長の思いを受けて、子どもを増やすには、やっぱり親の働き場所の確保だと思う。移住関係人口の増加や働く場所の確保、働き方改革等々皆さんと一緒に有意義な意見交換ができた。今後は、ここで出た意見をどのように実行していくかがポイントとなってくる。いかに私の立場で、北杜市とどのように関わっていけるかを今後の課題として取り組んでいく。
- 大変勉強になった会議だと感じた。様々な会議に出る中で心がけていることがある。一つは、子育て支援と高齢者支援はセットで行うべき。もう一つは、子育て支援で、カナダで行われているノーバディズパーフェクトという考え方。市民の皆さんの心を豊かに耕す人材として、互いに切磋琢磨しながら今後も議論していく。
- 非常に皆さんが子育て、自然に対して高い意識を持たれていることに感心した。それと同様に日頃から市長や議員、職員が何回も考えられていることだと思う。いつか点と点が線になる時があり、そういう時のために提言を行うと思う。ここに出た意見、分かっているよということもあるが、我々の話したことで線になって、行政サービスをより一層充実させていただく、その提言ができたのではないかと思う。この提言をうまく活用していただいて、実行に移していただきたい。来年も続くので、活発な意見を出して、市にうまく使ってもらっていただき、市民が喜べる施策となることを期待する。

※委員からの意見等を参考に、最終的には委員長と事務局で調整して、提言書を修正し、委員長から市長へ提言書を渡すこととなった。

終了